

1 学校教育目標

輝け中川の子
かしこく つよく あたたかく

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○ 児童と教職員が共に伸びる明るく活力のある学校 ・ 子供の瑞々しい感性を刺激する学校 ・ 児童が「ありたい自分」を発見する学校 ・ 児童が「挑む喜び」を感じられる学校 ・ 家庭や地域から愛され信頼される学校
○児童・生徒像	○ よく考え、たくましく、心豊かな子供 ・ 目標をもち、まっすぐに努力する子 ・ がんばっている自分と仲間を愛する子 ・ 進んで挨拶したり、友達のよさを認めたりできる子
○教師像	○ 児童一人一人を大切に、児童の心に響く指導をする教師 ・ 常に研鑽に努め、児童に学び方や学ぶ楽しさを教えて一人一人のよさを伸ばす教師 ・ 心身ともに健康で明るく、情熱と使命感をもって児童と共に学び、遊び、働く教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

前年度の成果と課題

- ・ 学力の向上に向けた学習の習慣化と豊かな人間関係を育む居心地のよい学級づくりを実践してきた。そのことにより学習の基礎基本の定着が見られた。引き続き、国語・算数を中心に日々の授業で学習したことを確実に身に付けさせる。また、今年度は教室ＩＣＴ機器及び児童一人一台情報端末の有効活用と、協働学習及び個別最適化の学習展開に力を入れていく。学級づくりにおいても「個」を尊重する教育を推進し、一人ひとりが安心して学校生活ができる環境が整っている。インクルーシブ教育をさらに推進していく。

学校の現状

- ・ どの学年も落ち着いた態度で生活・学習に取り組んでいる。目標をもち、成果を確かめながら、充実感と満足感を得て努力できる環境を整え、「中っ子」である喜びと誇りを醸成していく。
- ・ 「開かれた学校づくり協議会」や「ＰＴＡ」に支えられ、子供たちが充実した学校生活を送ったり、楽しく活動できたりするような行事等が行われている。昨年度は「校庭デイ・キャンプ」、「中っ子フェスティバル」が再開し、おおいに盛り上がった。手を携えて「子供たちのため」に協働できる関係づくりをさらに進めていきたい。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度）			R:令和	
		R4	R5	R6	R7	R8
1	区学力調査において、全学年通過率80%以上を目指し、学力の向上を図る。	◎	◎	◎	◎	○
2	心の教育を充実させ、内面のよさを行動や態度で表現できる児童を育てる。	○	◎	○	○	○
3	地域・保護者に信頼され、選ばれる学校づくりを推進する。	○	◎	◎	◎	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－１		区学力調査において、全学年通過率８０％以上を目指し、学力の向上を図る。							
A　今年度の成果目標			達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●
・全校で統一した学力向上策を確実に実施し、成果につなげる。			国語８０％　算数８５％		自己評価の際に記入				
B　目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	学　　び　の　個 別最適化 指　導　の　個 別化	全児童 国語 社会 算数 理科	毎日	足立スタンダードを基本 とした指導を行い一定の 目標を全ての児童が達成 することを目指す。 既習事項をもとに個々が 課題を設定し、学習した内 容を自分でまとめられる ようにまとめの視点を示 し指導を行う。	授業後ノート を回収し確認 し全員がめあ てやまとめが 書いてあるこ とを　確　認　す る。	自分の力でめ あてやまとめ を考え、自分 の言葉で書く ことができる。 前期７０％ 後期９０％	自己評価の際に記入		

2 新規	学びの個別最適化学習の個性化	全児童 国語 社会 算数 理科	毎日	個々の児童の興味・関心に応じた異なる目標に向けて、学習を深め、広げるために、 ・ 自学自習に活用 ・ ICT の活用 ・ 長期休業の宿題として活用する を行う。	週 1 回程度担任がノート等を確認	問題解決学習において計画的にまとめることができる。 自学自習 2 年生以上年週 1 回前期 7 0 % 後期 9 0 %	自己評価の際に記入		
3 新規	学びの個別最適化協同的な学び	全児童 国語 社会 算数 理科	週 1 回以上	異なる考え方を組み合わせ、よりよい学びを生み出すために、 ・ 授業に学び合いの時間を設定 ・ ICT の活用 を行い、児童相互の学びを深める。	授業観察 授業後ノートを回収し確認	自分の考えと友達との考えを比較して考えることができる。 単元 2 回程度 機会設定 1 0 0 %			
4 継続	学びの個別最適化学校 ICT の活用	全児童 国語 社会 算数 理科	毎日	ICT を活用した分かりやすい授業を推進する。 個に応じた指導、自主学習に ICT を活用する。	授業観察 学習履歴等で確認	週 1 回程度進捗を確認し声かけ 2 年生以上は 4 月からキュービナ活用週 2 回以上活用 1 0 0 %実施			
5 継続	読む力向上 読書推進	全児童 国語	低 中 学 年 週 1 回 高 学 年 月 1 回	・ 図書の時間や朝学を活用し、ブックトークや本の紹介を行う ・ 国語の教科書にあるおすすめの本をコーナー化し、様々な本に出合う機会を作る	読書記録で確認	低中学年 週 1 回 高学年 月 1 回 月 3 冊借りる			

6 継続	基礎学力 の定着 放課後補 習	個別指導 を要する 児童 全学年 算数	月2・3 回以上	①区学力C・D層対象 4～6月は区学力の復習 を行い基礎学力を固める。 ②単元テストで抽出 解説→やり直し→類似問 題 ③50問かけ算プリントを 活用 上記の取組みで基礎学力 の定着を図る。	・解き直しや 類似問題を活 用し確認 ・放課後補習 の内容について 後日類似問 題に取り組み 定着を確認	・月10回以上 実施			
---------	--------------------------	---------------------------------	-------------	--	---	---------------	--	--	--

重点的な取組事項－２		心の教育を充実させ、内面のよさを行動や態度で表現できる児童を育てる。			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感をもち、自他ともに認めあうことができる児童を育成する。		８０％以上	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
あいさつ運動を充実させ、満足感につなげる。	すすんであいさつをする児童 ９０％以上	学校と開かれた学校づくり協議会が連携した運動を展開する。	自己評価の際に記入		
授業中の姿勢や話の聞き方についてのモデルを示し定着を図る。	正しい姿勢や聞き方が身についた児童 ８０％以上	成果や達成度を確かめる機会を設定する。			
行事等で集団としての意識を高め、心豊かな児童の育成を図る。	自己のよさや可能性に目を向けられた児童 ８０％以上	夢デザインシート等を活用し、自己肯定感をもちつことができるようにする。			

配慮が必要な児童 への対応	配慮が必要な児童への支援を適切に行う。	児童相談所、こども家庭支援課、警察、SC・SSW と連携しケース会で改善を図る。	自己評価の際に記入	
---------------	---------------------	--	-----------	--

重点的な取組事項－３	地域・保護者に信頼され、選ばれる学校づくりを推進する。			
------------	-----------------------------	--	--	--

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
人権教育、健康教育・安全教育・減災教育を充実させるとともに、不登校傾向の児童や配慮が必要な児童に寄り添った支援を行う。	○学級が安心して学べる場である ○被害想定をもとにした減災教育 ○諸機関との適切な連携	自己評価の際に記入		

B 目標実現に向けた取組み				
---------------	--	--	--	--

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
各行事や学校評価のアンケートを分析し、ニーズを的確に把握する。	把握したニーズに対する対応を確実にし、発信する。	Home&School の活用 確実な分析とフィードバック	自己評価の際に記入		
児童が安心して生活できるような環境を整える。	2 回の実施結果をもとに、個々の変化を捉える。	WEBQU を年 2 回実施。学級の現状を把握・分析し、目指す学級集団像に近づけるよう手だてを講ずる。			
安全教育・減災教育の充実	被害想定をもとにした実効性のある避難訓練を実施する。	減災を意識し、日常の様々な場面を想定した訓練を行う。 防災ノート、マイタイムラインを活用する。			
地域の環境・人材を活用した体験・表現活動を行う。	地域とつながる活動を各学年で行う。	パズル教室の実施 ものづくり体験 企業との連携授業 地域への作品展示			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）